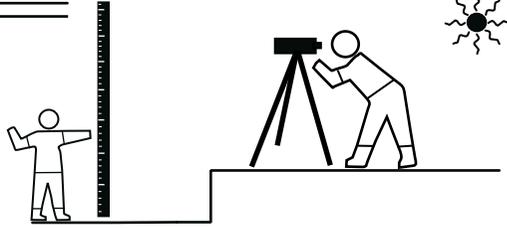


いわかげ

— No. 114 — 2008, 8, 12

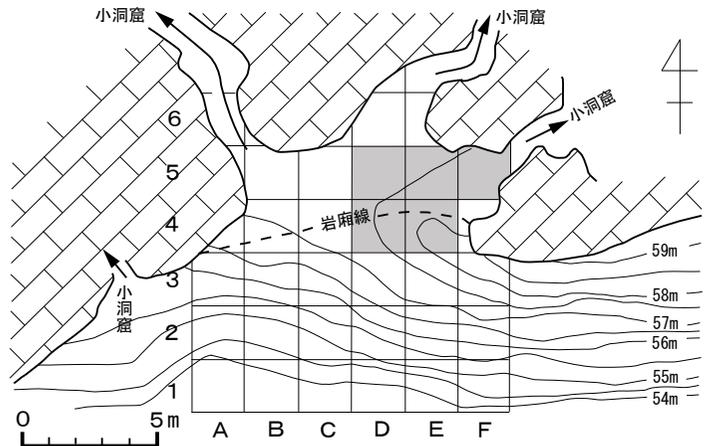
広島大学文学研究科考古学研究室・
帝釈峡遺跡群発掘調査室



2008年度 帝釈峡遺跡群・庄原市佐田峠墳墓群発掘調査 I期(8月4日～12日)

帝釈大風呂洞窟遺跡第13次調査

本遺跡は広島県神石郡神石高原町永野字大風呂に所在し、岩屋谷川左岸、帝釈観音堂洞窟遺跡の直上に位置します。洞窟は日当たりもよい南方向に開口し、間口幅約11m、奥行約4m、岩廂までの高さ3～3.5m、平坦面の広さは約40㎡で、これは直径5～6mの竪穴住居の床面積



第1図 帝釈大風呂洞窟遺跡調査区配置図
(網掛け部が今年度の調査予定範囲)

に相当する広さです。また洞窟内には小洞が3穴あり北側に延びています。

これまで、この洞窟は縄文時代草創期から古代・中世にかけて断続的に利用されていたと考えられ、弥生時代の遺物は出土していませんでした。しかし昨年度の調査ではD-4区第2層の崩落礫の下位から弥生時代中期土器の広口壺がほぼ完形に近い状態で出土しました。本遺跡では弥生時代の遺物の出土は初めてです。土器片の出土状況や接合関係から、この土器が、洞窟の入り口に単体で存在していたことが明らかとなりました。この特異な出土状況から、祭祀などの特定の目的により本遺跡に残されたか、あるいは一時的な遺跡の利用に伴い残された可能性などが想定できます。

昨年度までに弥生時代から中世までの遺物包含層である第2層を完掘し、本年度からは縄文時代前期から後期にかけてと考えられる第3層の発掘を開始しています。

また今期には遠く香川から小学生の森田貴文君、森田千尋さん兄妹が大風呂洞窟遺跡にやって来て、実際の発掘作業や水洗作業を体験しました。発掘作業では遺物を見つけることが出来ず少し残念な様子でしたが、先生の「ここはもしかしたら生活するために色々なものは置かず綺麗にしておいた場所かもしれないよ?」という説明に大変納得した様子でした。



今後は第3層の発掘調査を進め、縄文時代の生活を知る手がかりを見つけたいと思っています。Ⅱ期・Ⅲ期の調査にもどうぞ期待ください。(3年 谷本光紀)

コラム1 フィールドワークの大切さ

今回私たちは、大風呂遺跡の発掘調査に参加しました。初めての発掘調査だけあって緊張しましたが、先生、先輩方のご指導によりとてもよい勉強をさせていただきました。これまでに遺跡を見学したことはありましたが発掘経験はなかったため、自分の手で発掘道具を持って発掘させていただいた遺跡はより感慨深かったです。やはり考古学は自分の足で歩き、自分の手で発掘する。自らが主体的になって行動し、遺跡を体感するということがどれほど大切なのかを学ぶいい機会になったと思います。(2年 小森由佳理)

コラム2 帝釈峡に行つて

私は、帝釈峡の観音堂洞窟遺跡という場所に行きました。そこに、居たお兄さんと一緒に山を登りました。どんどん高いところを登るので少し怖かったです。登るのも疲れしました。最初に、この遺跡がどういったところなのか説明してくれたのが、分かりやすかったです。それから、ガリという道具を借りて土を削ってみました。とっても楽しかったです。次に、土を持って山を下りました。登るときより、きつかったです。お兄さんたちは、すいすい登りおりしてすげえと思いました。川で土をざるに入れて洗いました。それをやっていたら、マイマイという昔のカタツムリの殻が見つかって嬉しかったです。遺跡を掘ったり、水洗作業をしたりするのがとっても楽しかったです。色々教えてくれた、先生、お兄さんお姉さんありがとうございました。このことを夏休みのチャレンジ発表会(自由研究の発表会)で発表します。(小学生 森田千尋ちゃん)

コラム3 遺跡発掘

僕の夢は、考古学者・古生物学者になることです。帝釈峡の観音堂洞窟遺跡というところに行きました。そこにいたお兄さんの案内で現場に行きました。お兄さんは、山をカモシカのように登っていたのですごいなと思いました。遺跡の中を区画に分けて発掘していました。僕は、区画に分けて発掘することを初めて知りました。ガリと言う道具で土を掘っていきました。僕たちが、どんなに削っても何も出ませんでした。僕は、始め遺物は、よく見つかるものとおもいました。ちょっと、悲しかったです。でも、先生が水洗作業をすれば、何か出るかも知れない。と言われたので水洗作業をしました。僕は始めないと思っていたけど、水洗作業をしていたら、マイマイ（カタツムリ）の全身と、割れた破片が見つかったので、とてもうれしかったです。先生は、「でない事は、どうしてそこに何もでないかを考えるのも考古学だよ。」と教えてくれました。考古学とは、ある事もないことも考古学だと思いました。僕はたくさんでると思っていたので新しい発見でした。もう一度やって見たくくなりました。お世話になりました。
(小学生 森田貴文君)

さた だおふんぼぐん 佐田峠墳墓群

佐田峠墳墓群は庄原市宮内町に所在する弥生時代の墳墓群です。今年から調査を行っている3号墓は庄原市の試掘調査により発見された四隅突出型墳丘墓の一つで、保護と活用を目指して2007年から広島大学で調査を開始しました。

四隅突出型墳丘墓は、長方形の墳丘の四隅が外側に張り出した形をして

います。弥生時代の中期から後期、今からおよそ2000年前に発達した墓制で、庄原・三次などの中国地方山間部から、山陰さらには北陸に広がります。弥生時代の墳丘墓には長方形で周りに溝を掘り込んだ方形周溝墓がありますが、一説によれば四隅突出型墳丘墓はそのバリエーションの一つで、この四隅の一つだけが成長し、後の前方後円墳に繋がったとも言われています。

さて、今年は墓壙の発見と、その調査が目標のひとつなのですが、第I期の調査では墳丘上の平坦な面に長さ7m、幅4mの調査区を設定し、それを4つの区画に分け、土の変化を見るための畦を残して掘り下げを開始しました。佐田峠3号墓は東西に長



い墳丘なのですが、西側の調査区では掘下げを始めてすぐに弥生時代中期後半の土器片が出土しました。その後も西側は掘り下げを進めていくと、約100点程の土器片が出土しました。中でも特筆すべきは大型の台付鉢の破片です。このような大型の、しかも中期の後半の台付鉢は全国的にも極めて珍しいもので、佐田峠3号墓が四隅突出型墳丘墓の中でも古い段階のものであるとわかります。掘り下げていくと、現在の地表から約30cmの深さで全体的に固くしまった黒い土の層が現れました。これは今のところ墳墓本来の盛り土であると考えています。もう一つ、東側の調査区ですが、こちらからは拳2つ分くらいの円礫を含んだ石がいくつか見つかっています。ちょうど一列に並ぶように見え、西側にも一部及ぶようですが、今のところ詳しいことは分かっていません。今後の調査にご期待下さい。西側とは違い、東側ではまったく土器の出ないことも東側の特徴の一つといえるでしょう。

また、墳丘の斜面、長軸から見て南側にも細長いトレンチを入れ、墳墓の土をどのように盛ったのか、墳墓の斜面はどのように飾られていたのかを調べました。その結果、墳墓の斜面には40cm角ほどの扁平な石が貼り付けてあったこと、土台は地山を削って作っていたことが判明しました。これ以上のことは掘り込みを広げてみなければわかりませんが、今後の調査で徐々に明らかにしてゆきたいと思います。

最後に今回の主目的である墓壙の検出ですが、先ほど述べたように墳丘盛土と思われる黒土が全面に渡り検出されかけているので、現在はその黒土まで全面で掘り下げ、墓壙盛土の確認を試みています。調査は今後も9月の中ごろまで続ける予定です。まだまだ手間取ることも多いですが、今後も精一杯努力を続けていきますので、今後の成果にご期待下さい。(3年 三輪宜生)

コラム4 初めての帝釈峡発掘

考古学に期待を寄せて広島大学に入学した僕にとって、今回が人生最初の発掘です。僕が担当させてもらったのは今回が第1期の発掘となる佐田峠墳墓群の3号墓です。初めての発掘のため、第1期の発掘は正直プレッシャーでした。掘るにしてもどのように掘ればいいのか、どこまで掘ればいいのか全然わからなくて、発掘前に緊張で押しつぶれそうでした。でも、いざ発掘にはいってみると先輩たちはわかりやすく掘り方を教えてください、先生は軽くジョークをとばしてくださったりと、周りの人たちの気遣いで僕はここに余裕をもつことができました。それからは発掘をするのが楽しくなり、毎日早起きをして発掘を心待ちにしている自分がそこにいました。発掘中もただ掘るだけでなく自ら意見もしました。右も左もわからない僕ですが、先輩たちは意見をないがしろにせずしっかり受け入れてくださって、僕は素直に感動しました。発掘初期のいま、帝釈峡発掘に楽しみを見出したのですが、これからの発掘でも多くの楽しみを見出していこうと意気込んでいます。(2年 小林彬)

参加者名簿(I期8月4日～8月12日)

広島大学大学院文学研究科	教授	古瀬清秀
同上	准教授	竹広文明
同上	准教授	野島永
同上	大学院生	石貫弘泰(D2生) 小林昴博・迫田苑子・辻村哲農・藤田親・宮岡昌宣 (M1生)
広島大学文学部学生	板木達也・谷口早季・谷本光紀・細石朋希・三輪直生・横山瑛一 (3年生)	
	安部智洋・今福拓哉・小林彬・小森由佳利・野村友規(2年生)	
愛知教育大学大学院研究生	松橋義隆	
”	学部生	二宮知也

人物往来

愛知教育大学教養学部	河村善也先生(8/5～6)
総合地球環境学研究所	内山純蔵先生・楨林啓介さん(8/5～7)
”	石丸恵利子さん(8/7～11)

陣中見舞い

石丸さん	ジュース・お菓子
内山先生	お菓子
大麻さん(考古学研究室)	お菓子
河村先生	お菓子
久野さん	お菓子
溪山荘	かしわもち
佐古さん(庄原市教委)	カボチャ・きゅうり・トマト・ナス
田辺さん	かしわもち・トマト・ゴーヤ・ミョウガ
寺田さん	ぶどう
藤井さん	スイカ・トマト・ナス
福田さんご家族	ジュース
明賀さん(帝釈)	きゅうり・トマト
森田さんご家族	肉・野菜・ビール・ジュース・焼肉のたれ
山口さんご家族	肉・野菜・ビール・ジュース・焼肉のたれ
弥生食堂(帝釈)	インゲンマメ
横溝さん(神石高原町)	ビール
吉津さん(神石高原町役場)	ビール

他にも多くの方々は大変お世話になりました。ありがとうございます。

編集後記

第Ⅰ期が終わり、両遺跡とも遺構や遺物が検出され始め、昔の人々の暮らしが復元されつつあります。お盆明けの18日から第Ⅱ期の調査を再開する予定ですので、皆さんぜひ昔の人々と同じ空気を吸いに遺跡へいらしてください。お待ちしております。

(編集 迫田苑子)

広島大学考古学研究室 〒739-8522 東広島市鏡山1-2-3 (Tel:0824-24-6663)

帝釈峽遺跡群発掘調査室 〒729-5554 庄原市東城町帝釈末渡野田原 (Tel:08477-6-0101)

研究室ホームページ URL <http://home.hiroshima-u.ac.jp/kouko>



帝釈観音堂洞窟遺跡前にて森田さん・山口さんご家族と共に